

EPA・農業ワーキンググループ現地視察について

平成19年2月26日

伊藤隆敏

大泉一貫

木村福成

高木勇樹

2007年2月14日(水)～15日(木)に宮城県内の農業生産者(別紙)を訪問し意見交換を行い、以下のような意見が出された。

1. 農業全般について

- 農業機械の共同利用が集落営農の第一歩だが、集落の意見をまとめるには、困難が伴う。高齢化が著しく、10年先の話をしてもまとまらない。
- 農作業の委託は、個人が所有している農業機械の老朽化とともに徐々に進むと見込んでいる。
- 農作物は、天候によって収穫量の変動することから、全体のコストを見とおして経営するには一定の限界がある。また、他産業に比べ、農業の人件費は低く、これを更に削ることはできない。一方、肥料や農薬を極力使用しない農業をすることで、ある程度は肥料や農薬のコストの削減にはなろう。
- 圃場の状況を勘案しながら、今年から不耕起栽培を試験的に始めたが、1年1作であることから、経営的にうまくいくか判断できるまでには相当程度の時間を要する。
- 技術開発の面で、大学など研究機関と農業経営者が十分に連携する必要。また、農協も専門性をもち、農業経営者のもつ知見や最新の試みも理解して欲しい。
- 酪農の副産物である子牛は、和牛精子の人工授精や和牛受精卵移植により、高く取引されるものを作ることはできるが、後者はコスト面の課題が残る。
- 企業が農業経営に参入する場合、農業により利益が出なくとも、それ以外のメリットを見出せるかもポイントとなる。
- コメを自家販売(インターネット販売やデパートに販売)しており、農協に委託販売するよりもかなり高い値段になる。ただ、農協の場合は、仮渡金などで当面のキャッシュ・フローを維持できるほか、代金回収のリスクも回避できる。現状では全てを自家販売でさばくことは難しい。
- 農産物直売所は、農家の収入確保に寄与しているほか、生産者が農産物直売所に足を運ぶことにより、消費者のニーズを的確に捉える場としても活用されている。努力や工夫次第で相当の売上があるので、農業経営のモチベーションも高い。参加している農業者は女性や高齢者が多い。また、例えば、形

が規格に合わずスーパーマーケットが引き取らないものを直売所に持ち込むなど、農家が出荷先を使い分けし始めた。地域の消費者も、農産物直売所とスーパーマーケットを使い分けているとの印象。

- 農産物直売所は、運営が大事。例えば、年間の売上が定められた額に達しない人は退会してもらうなど、一定の規律を設けている。
- 冬季は一部の圃場に水をはり（冬水たんぼ）、渡り鳥の越冬地とする取り組みをしている。環境を守るためにも農業がこれ以上衰退しないようにしていきたい。

2. 経営規模拡大について

- 農地の集積により会社が発展し、将来的には農業が若者の雇用の場となり、地域活性化に貢献できるよう頑張りたい。
- 基盤整備が行われていない農地や中山間地の農地では、農作業の機械化が難しく、そのような農地の作業委託はコスト面から受けにくい。他方、管理料を支払っても委託したいという農地所有者もいる。
- 農産物価格の低下への対応として、経営する農地面積を増やすことも一案だが、現在の自社の労働力や持っている機械の能力を勘案すると限界がある。自分たちの会社に委託したいと言う農地所有者が多くいるが、こうした要望に応えるために、更なる機械の導入や雇用を拡大することは資金的にも年齢的にも難しく、どこまで受託できるかという点で不安がある。このように考えると農業生産法人の数が増えないといけない。
- 農地の賃借料がコストに占める割合は大きいものの、賃借料は農業委員会の標準協定に則って決めている。
- 国内で黒字の酪農家は多くはなく国境措置が撤廃されると生き残れない。経営規模を拡大することでスケール・メリットは生まれるが、それでも米国や豪州とは経営環境が著しく異なることから国際競争に耐えられない。
- 生産調整は 34%程度であり、大豆等を作っている。仮に生産調整する必要がないということであれば、コメをもっと作りたいが、現時点ではルールに則った農業経営を行っている。なお、周辺では捨て作りになっている農家も少なくない。
- 土地代の安い地域であっても、新たに農地を取得して経営しようとする採算が合わないため、農地は賃貸借契約により確保している。もっと、長期契約できるようになると良い。
- 構造改革特区で始まった株式会社の農業への参入は、全国展開されたが、自治体との関係で進まないケースがある。

以 上

(別紙)

訪問先一覧

平成19年2月14日(水)

- ① 特定農業団体 相川実践集団機械利用組合(大和町^{たいわちよう})
- ② 農事組合法人 やくらい土産センターさんちゃん会(加美町^{かみまち})
- ③ 有限会社 川口グリーンセンター(栗原市^{くりはらし})

平成19年2月15日(木)

- ④ 有限会社 おっとちグリーンステーション(登米市^{とめし})
- ⑤ 有限会社 岩崎牧場(湧谷町^{わくやちよう})
- ⑥ 有限会社 花野果市場(美里町^{みさとまち})
- ⑦ 株式会社 一ノ蔵(大崎市^{おおさきし})

※1 ①から⑦の順に訪問。

※2 伊藤メンバーは①～⑦、高木メンバーは①～④、大泉メンバーと木村メンバーは④～⑦を視察。